

棚田に吹く風



7 2010
月号
Vol.71
隔月刊

2 私の田植えスタイル

5 フォトエッセイ

棚田のあるところ

6 棚田・里山からのたより

現代アートと協働する まつだい棚田バンク

新潟県十日町市 NPO法人越後妻有里山協働機構 まつだい棚田バンク



8 棚田番長

岡んぼの生き物たち

9 棚田博士は今日も行く

伊吹山地東部の貝原棚田

岐阜県揖斐川町 寺本

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの

かつどうノート

kamyのつぶやき

15 Project Report



TAUE Style 1

滋賀県大津市

仰木棚田 『早乙女田植え』



早乙女が復活できて嬉しい!

大阪在住の扇田さん



いい経験できました!

大阪在住の義源さん



一生の思い出になりました!

大阪在住の戸田さん

関西の会員さんが主催する友好団体「棚田むすびの会」のお米作り体験2年目。5月8日、馬蹄型で有名な滋賀県大津市仰木の棚田で、今年は早乙女チャレンジ!



初、田の土の感触。面白体験です

奈良在住の岡さん



おこめをたいせつに☆

大阪在住の大谷さん



今シーズンもたくさんの人たちが、各地のオーナー制度やイベントなどで田植えを体験しました。今回はそんな人たちのそれぞれの「田植えスタイル」を現地で直撃取材してきました!

私の

田植えスタイル

My TAUE Style



TAUE Style 2

栃木県茂木町

岩ノ作棚田 『棚田でわくわく田植え体験』

5月22日、今年は参加人数70名を超えた茂木田植えバスツアー！東京から近いこともあり、みなさん普段着に裸足のライトな田植えスタイルです。



お母さんたち、お昼ご飯
美味しかったです。また来ます。

東京在住の谷口さん



2度目の田植えを体験することが
でき、本当に楽しかったです！

東京在住の山田さん



今年で2回目の
親子での参加です！

東京在住の大木さん親子



新緑の里山が本当にきれいで、
大満足な一日でした！

東京在住の風間さん



来年もぜひ
田植えに来てください！

茂木町在住の生産者・土屋さん

TAUE Style 3

岐阜県恵那市

坂折棚田

『棚田ビオトープの田植え』

棚田百選の恵那市坂折棚田でのビオ
トーププロジェクトも今年4年目！
5月28日に田植えを行いました。



着古した普段着とジヤージ。
足元は裸足です

岐阜在住の伊藤さん



約30年前に母親が
作ってくれたモンベですっ！

横浜在住の亀田さん



TAUE Style 4

静岡県賀茂郡松崎町
石部棚田『田植え祭』

5月15・16日、棚田オーナー・
トラスト会員による『田植え祭』
での田植えスタイル。好天に恵
まれ、みんな清々しい笑顔です！



初めての参加です！
ベテラン級まで行きたいナ！

東京在住の増井さん



初めての田植え参加！
地元の人と触れ合いたい！

埼玉在住の沢さん



18年前に手に入れた笠で
田植え参加でしたっ！

東京在住の荒川さん

私の田植えスタイル



農業といえはつなずかな（笑）
初めてなので、それとなく感じれば！

東京在住の堀さん夫婦



オーナー1年目です。
美味しいお米を作ります！

横浜在住の高木さん

昨今の農業ブームが棚田にも確実に押し寄せているのでしょうか。今年は若い人たちの思いっきり田植えを楽しもう！という気持ちが伝わってきました。おしゃれなガーデニングスタイル、笠や手ぬぐいなどの伝統的アイテムでワンポイントコーディネート、様々な形のキャップや帽子たち。そしてコスプレ的感覚の早乙女姿と、普段静かな棚田をにぎやかな色が埋め尽くしました。形は変われど、今も昔も田植えは華やかなお祭りですね。

みなさん、思い思いのスタイルで『田植え』を満喫していました

棚田のあるところ

写真と文 大塚 雅貴



Profile

写真家

大塚 雅貴

おおつか まさたか



1968年、千葉県生まれ。1993年、写真家・野町和嘉氏の助手としてサハラ砂漠取材に同行。1997年からエジプトでアラビア語留学を経て、リビア、ニジェール、マリなどのサハラ砂漠を取材する。2004年キャノンマーケティングジャパン(株)カレンダーの撮影を担当。写真集「耕して天に至る〜中国・雲南 世界一の棚田」(毎日新聞社)を出版。現在、北アフリカを中心に遺跡やサハラ砂漠の撮影を続け、雑誌や個展などで作品を発表している。

■大塚雅貴オフィシャルホームページ
<http://www.photo-otsuka.com>

個展

- 2000年「食巧の美」(中国雲南の棚田) 開催(銀座キヤノンサロン)
- 2003年「砂が描く大地」(最奥のサハラを行く)開催(銀座富士フォトサロン)
- 2004年「山郷」開催(全国キヤノンサロン)

アジサイの咲く棚田

千葉県鴨川市

「虫が寄ってくるから植えないのよ」。カレンダーの撮影でアジサイの咲く棚田を探しに出かけたが、なかなか見つからない。確か、桜についても同じようなことを言われたことがあった。そして、高知県でアジサイの咲く棚田を見つけたと思ったら、運悪く撮影当日は快晴。これではアジサイの淡い紫色の花も乾いて枯れているように写ってしまう。諦めかけていた7月上旬、自宅から近い千葉県の大山千枚田へ出かける。その途中の棚田で濃い紫色のアジサイを見つけ、そして待つこと3日。ようやく待望の雨が降り出した。カエルが鳴きはじめ、稲の葉からしずくが落ち、しとしとと降る静かな雨に、困っていた農家の人たちからは笑顔がこぼれた。

棚田・里山
からの
たより



現代アートと協働する まつだいい棚田バンク

新潟県十日町市
NPO法人越後妻有里山協働機構
まつだいい棚田バンク



上：イリヤ&エミリア・カバコフ「棚田」 ©ANZA / 下左：昔ながらの木杵を転がして / 下中：室野集落の棚田の田植え / 下右：アートと一緒に

越後妻有（十日町市、津南町）は新潟県南部に位置し、東京から電車で2時間半ほどの距離にあります。冬には4メートルの雪が積もる、日本有数の豪雪地域です。車を走らせると、先人達が築き上げた美しい棚田は、山を這い、まるで空に届いてしまうかのように広がり、昔ながらの日本の里山の風景を残しています。しかしよく目を凝らすと、耕作されずに草の生い茂る田んぼも、あちこちらに見られます。こうした耕作放棄地は、日本全国でも461万畝にものぼるといわれていますが、ここ松代（旧松代町）でも、1970年から現在まで、およそ600畝もの田んぼが耕作されなくなりました。豪雪、中山間地域、地滑り、過疎・高齢化、限界集落……。これらの言葉は、松代を説明する代名詞のように使われます。

こうしたさなかの2003年、「まつだいい棚田バンク」は、まつだいい雪国農耕文化村センター（愛称…まつ

だいい「農舞台」を活動拠点に、松代の風景と人々の生活のベースとなっている農業の展望をもう一度見つめ直そうという思いを込めて立ち上げられました。

私たちの棚田オーナー制度の最大の特徴は、「大地の芸術祭」^{（注）}の活動との関わりです。すなわち、芸術家や都市住民など、地域外の人々の目から、棚田や里山の価値を捉え直していることです。棚田バンクが耕す田んぼには、イリヤ&エミリア・カバコフの「棚田」などのアートが点在し、里親（棚田オーナー）もスタッフも、そして、地域住民も鑑賞し、癒され、農を体験しながら学んでいます。都会育ちのNPOスタッフも、地元の方に「稲を束ねる結び方が汚い」などと叱られながら、誰もいなくなった棚田にアートを活用して人を集め、関わる人を元気にすることに充実感を感じています。

棚田バンクでは、里親は田植え、草刈り、稲刈りの農作業を体験し、



上：空中田植えのポット苗／下：みんなで畔に一列に並んで、田んぼに向かって、苗を投げ入れます。土の重みで苗が田んぼに刺さり入ります。楽しんです。

■ 農舞台へのアクセス

東京から

【電 車】 東京駅～上越新幹線・越後湯沢駅～ほくほく線・まつだい駅
約2時間半

【自家用車】 関越自動車道・六日町I.C.～国道253号経由 約3時間

大阪から

【電 車】 北陸本線・金沢駅～ほくほく線・まつだい駅 約5時間

【自家用車】 名神高速道路～北陸自動車道・上越I.C.～国道253号経由 約6時間

■ お問い合わせ

【「大地の芸術祭の里」総合案内所】

〒942-1526

新潟県十日町市松代3743-1まつだい「農舞台」内

Tel.025-595-6688 Fax.025-595-6181

E-mail : tanada@noubutai.com

HP : www.echigo-tsumari.jp/

秋の収穫を祝う収穫祭に参加できます。そして、加入面積に応じた配当米を受け取ることができます。設立当初20名ほどであった里親は、2009年度にはおよそ100名となりました。2010年度からは、都会の企業や団体向けに、憩いと学びの場を提供する「里親プロジェクト（企業オーナー制度）」を開始しました。また、里親でない方への農作業体験もスタートしています。今年度の田植え体験では、4回に渡って田植え体験を行い、縄を張って一

斉に田植えをする「縄植え」、八角形の木枠を転がして等間隔に苗を植える「手植え」、ポット苗を育て、土を重りに畔から苗を投げ入れる「空中田植え」など、いろいろな種類の田植えに挑戦しました。体験した皆さまからは、先人の知恵に対する驚嘆の声がもれ、田んぼが賑わいます。そして、何よりも私たちの活動を支えてくれているのが、地元住民の方々です。中山間地域だからこそ残っている農法や農村生活の知恵を、バラエティ溢れた地元住民が先

生となって、里親やNPOスタッフに楽しく、ときに厳しく教えてくれます。ここは、生産性や効率性の観点からみると、近代化の波に乗り遅れた場所といえるかもしれません。しかし、その波から逃れ、貴重な日本の原風景が残るこの場所に、得地の知れない芸術作品が放り込まれることで、人々が集い、耕作者（あるいは農業から離れた地元住民）と都市住民との交流が生まれ、さまざまな人にとつての特別な場所となりつつあります。そして、今、お年寄りは笑顔に包まれ、近代化により否定された棚田や里山が希望にあふれた場所となっています。まつだい棚田バンク

くは、農業界に革命をもたらすことができるかもしれません。

NPO法人越後妻有里山協働機構

まつだい棚田バンク事務局

竹中想・藤本保恵

*注

「大地の芸術祭」は2000年からスタートし、現在約200点のアート作品が、約760km²の広さのある（東京23区とほぼ同面積）越後妻有の里山に展開しています。第4回展の2009年度は、40の国と地域からアーティストが参加し、地元からは92の集落が参加しました。約37万人もの方々に来場いただき、多くのメディアにも取り上げられました。地域との協働をめざして、2008年7月、NPO法人越後妻有里山協働機構を設立し、約400人の雇用や有償ボランティアを創出しています。



棚田の番人 第一回

棚田番長

静岡県賀茂郡松崎町
石部棚田

高橋 靖 (73歳)

「おれっちが棚田を守ってく！」

帽子を斜めに被り、いつもスクーターにまたがり棚田に目を光らせる「やっさん」こと高橋靖。石部棚田が80%耕作放棄された平成11年、最後まで耕作し続けていたのは、ご先祖様の言いつけを守ったこの男だった。漁師引退後、73才にして、今も毎日自分の棚田へ通う。

まさに棚田番長の名に相応しい……。



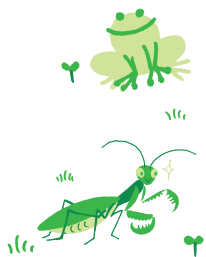
写真：桐原佳介

田んぼのまわりでよく見られる野鳥の中でも、大きくて白い姿が印象的なサギの仲間。よくシラサギという名を耳にしますが、シラサギという野鳥はいません。コサギ、チュウサギ、ダイサギなどの白いサギの総称として使われています。私は高校生の時まで、シラサギという鳥がいるのだと思い込んでいました。しかし、その見分けるコツを教えてもらってから

田んぼの生き物たち



第20回 ダイサギ



は、田んぼに集まるサギを見るのがとても楽しくなりました。足の指だけ黄色いコサギ、夏鳥として飛来するチュウサギ、顔のお化粧が個性的なダイサギ、亜麻色のたてがみが美しいアマサギなど、その顔ぶれは田んぼの風景とよく似合います。

田植えの前、耕転機で田んぼを耕している後ろから沢山のサギがついてくる風景がかつては普通に見られていました。その中に、コウノトリやトキが混じっていた時代もあったでしょう。生き物たちの賑わいがある田んぼが減っている昨今、ドジョウやカエル、小エビにサワガニと小動物が息づく田んぼの価値が見直されています。サギたちの飛来は、生き物たちと共に育った田んぼであることの証し。みなさんの馴染みの田んぼに、白いサギが訪れていたら、どんなお食事をするかは非観察してみましよう。

(自然観察指導員 桐原真希)



棚田博士
は
今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

伊吹山地東部の貝原棚田

岐阜県揖斐川町 寺本

早朝のバスで寺本へ

駅前から7時22分に発車する春日美束行きの名阪近鉄バスに乗る。

(注1) バスは、ターミナルを出てすぐに右折、国道417号を北上して下岡島の交差点を左折。今度は県道32号を西へ、粕川がつくった扇状地の上を扇頂に向かって走る。

(注2) その扇頂、標高80mにある集落が市場。山間地の産物と平坦地の産物が交換される市がたち、その名が生まれたのであろう。このような集落を地理学では谷口あるいは溪口集落とよんでいる。

県道32号は粕川に沿い、濃尾平野から伊吹山地へ。粕川は、道から40〜50m下を流れ、すぐに深い溪谷になった。溪谷のなかの狭い平坦地に家屋が密集する集落が点在、車で通勤できなかった時代、



なかしま みつひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

何を生業にして暮らしてきたのだろうかと思った。これらの集落から小学生が乗り込んできた。私ひとりの専用車はスクールバスに早変わり。しかし、それもひととき、粕川と長谷川が合流する川合で30名かくの小学生たちは賑やかな声を残して降りて行った。再び静かになったバスは一段と急になった坂を上り、標高360mにある寺本の停留所に到着した。(注3)

貝原の棚田の特徴

貝原の棚田は、県道から一旦集落に上がり、集落内を通り過ぎて南へ向かうと姿を見せる。標高965

揖斐川町は岐阜県の南西部、伊吹山地の東部を占める。平成の大合併により春日村や西国巡礼三十三番札所の華嚴寺がある谷汲村など5村を併合、広大な面積をもつ町になった。寺本は旧春日村の中央部、粕川の上流域にある山村集落である。

寺本の貝原棚田は「ぎふ棚田21選」のひとつ。2008年11月中旬につづき2009年7月初旬に伊吹山地の棚田を訪ねた。岐阜駅前で前泊、早朝の電車に乗り大垣で下車、養老鉄道に乗り換える。地方鉄道の電車は、伊吹山地と揖斐川の間広がる田園地帯をゆつたりのんびりと、波打ちながらゴトゴト音をたてながら走り、終点の揖斐駅に着いた。

峠の鎗ヶ先の西麓、標高350㍎410㍎の森に囲まれた斜面に拓かれています。傾斜6分の1、面積3・5㍎に168枚の棚田があるという。一枚の大きさは平均2㍎、実際には1㍎前後のものが多い。等高線状に湾曲し、細長い形をしている。棚田の上段から下段までの比高差が60㍎、段数が45段前後あるので各段の高さは1・5㍎ほど。法面は石積みの上が土坡になっているものが最も多く、石積み、あるいは土坡のみのものもみられる。

棚田全体は、中央部を横断する農道で上下段に分けられ、上段部分の下部と下段部分の上部、すなわち全体の中央部に当たるところは用水不足のため放棄されるか転作畑になっている。また、中央部には貝原棚田のシンボル、「オサノサン」とよばれる樹齢300年のスギの巨木がたっている。棚田の地権者は30名近くいるが、現在も耕作しているのは8名。168枚のうち44枚、およそ4分の1が水田として耕作されているにすぎない。棚田の周りは、イノシシの侵入を防ぐためフェンスで囲まれており、道の入口も扉が取り付けら



上：貝原の棚田／
中：地元の耕作者の皆さん／下：手づくりの休憩所



れている。このため作業にやってくる度に、軽トラを降り扉の開閉をしなければならない。

3人の耕作者にお話を聞く

集落に入り中山間地域等直接支払制度の役員3人から話を聞いた。前代表の新川義信さん74歳、現代表の新川勝重さん62歳、会計の竹内義正さん76歳である。義信さんは72歳の奥さんとの二人暮らし。数年前まで地元の建設会社に勤務した兼業農家、そして合併するまでの12年間村議を務めた集落のリーダー。現在は水田30㍎を耕作、貝原には2枚、5㍎の棚田があり、耕耘機、歩行型2条田植機、バインダーを使い米づくりを行っている。

現代表の勝重さんは、揖斐川町の隣町、平坦地の池田町に移住して造園業を営む兼業農家。貝原の棚田へは出作りで来ているとのこと。61歳の奥さんのほか、92歳と86歳の両親、農業改良普及センターに勤める娘さん36歳、会社員の息子さん26歳も同居している賑やかな家族。貝原に7枚、20㍎の水田を持ち、歩行型の機械類を用いて耕作。作業は勝重さんと娘さんが行い、それに両親が水廻りや草引きを手伝ってくれるそう。

会計の竹内さんは、10年前に腎臓病で奥さんを亡くしてから一人暮らし。学校を出てからは1970年頃まで炭焼きを行い、その後森林組合に勤めた。しかし、奥さんについて語り合った。

2回目に訪ねたとき、腎臓病に効くといわれるキササゲの白い花が門前に咲く竹内さんの家に新代表、NPO法人「山菜の里いび」の理事長小寺春樹さん、春日公民館長林孝芳さん、町の職員山田直人さんらが集まり、貝原のこれからについて語り合った。

貝原のこれからについて語り合う

棚田博士の おすすめビューポイント



景観的には、最上段にある面積の最も広い棚田の畦から眺めるのがよい。手前は数段が耕作されており、濃緑の田面と、よく草刈りが行われているためくっきりとした輪郭をもつ薄緑の畦との対比が美しい。転作畑が多い中央部は雑然としているが、その先の巨木スギより下の部分は左右二手に分かれ、薄緑の畦に縁取られた等高線に沿う細長い棚田が十段近く数えられる。実際にはもっと段数があるはずだが向かいの山の緑のなかに吸い込まれて見えない。その山の稜線後方にはより高い伊吹山地の山並みが遠望される。

新代表が云うには、耕作放棄の進行により、3年前役員が集まり、中山間地域等直接支払の受け入れを「ヤメヨウマイ」（止めてしまおうの意）というところまでいったという。しかし、ご先祖さまに申し訳ないという気持ちがあり決断することができず、ぐずぐずしていたところ、県が貝原を棚田21選の一つに選定。その後力メラマンなど町の人々がたくさん訪ねてくるようになった。また、小寺さんに「貝原は町の宝だから残すのに協力します」というエールをもらい勇気づけられて保全の取り組みが始まったそうだ。

2009年は取り組み元年、まず巨木スギの横に手作りの休み小屋を建設。そして春日小学校全児童43名を招き、田植え体験を実施した。つづいて、岐阜大学里山くらし応援隊20名と一般市民30名にも田植え体験をさせ、一般市民からは参加費500円を徴収、秋には稲刈を予定しているとのこと。

さらに、新代表は棚田オーナー制の構想を披露した。これを実現させるためには、用水の確保を図る必要があるという。現在、棚田の中央部で耕作放棄や転作が進んでいるのは用水不足によるもの。これは山からの水の出方が変化したためである。すなわち、1970年頃までの薪炭材採取の雑木林からは平均的に水が出ていたが、アオ山といわれるスギ山にかわってからは「イッタンミズ」、雨の後、一度に水が出るようになったという。これでは安定的な水の確保は困難である。その対策として県あるいは町からの助成金を得て棚田の最上部付近に溜池を築造したいとのこと。オーナー制はそれからだと仰しやる。小寺さんが棚田や山菜のほか地域の宝を発掘して都市住民を呼び込みたいと言え、林さんは小学校の廃校を宿

泊施設として利用、農業体験を拡充したいと主張される。人影もない静かな山里の一角から聞こえる賑やかな声は、これから始まる貝原棚田での取り組みを予感させる力強いものであった。

※注1

これを逃すと11時台までなく、朝夕を中心にした1日6便の運行。このような交通事情のため岐阜に前泊、早朝からの行動になった。

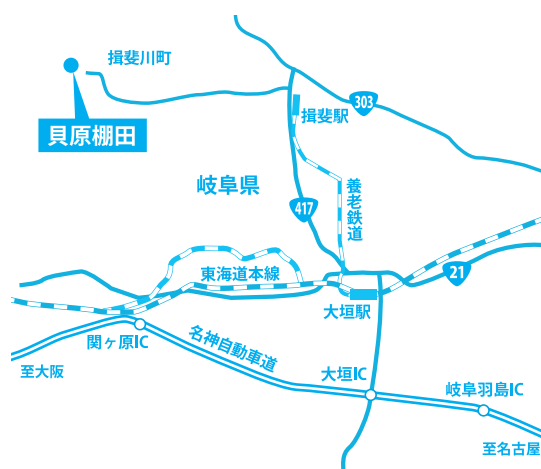
※注2

扇頂とは、扇状地の頂部のこと。河川が山間地から平野へ出ることを指す。ここを頂にして扇状地が形成される。

※注3

料金は40分乗って200円、女性ドライバーに「安いですね」といったら、行政が補助している「コミュニティバスですから」と答えた。

貝原棚田へのアクセス



【自家用車】名神高速道路・大垣ICから国道258号→国道417号線・揖斐駅を越えたら国道32号線を左折し春日美東方面へ進む

【公共交通】JR大垣駅から養老鉄道養老線で揖斐駅→名阪近鉄バス春日美東線で寺本停留所下車

サボテンすら枯らす男の独り言

中野 順平 (東京都板橋区)

ニュースを見ていたら、鳩山さんが首相を辞めたという。そういえば「引退したら農業をやりたい」と言っていた。サッカーの岡田監督も、「この大会が終わったら農業でもやるかな」と言っていた。私の死んだ祖父さんも晩年は庭いじりに没頭し、土にまみれていたなあ。忙しい人ほど最後は農村の土へ帰って行くものらしい。

この私、滋賀の田舎の出身ながら、大阪でサラリーマン生活を始め、今では東京で、田んぼひとつ見る事の無い場所で生活している。子供のころ見た銀色に光ったビルを見て未来を感じ、あこがれた私。当然のごとく、仕事を都会に求めた。

そんな私が今では棚田ネットの会員になり、お世話になっている。滋賀の田舎に帰れば、近くの仰木の棚田へカメラを持って出かける。天気の良い休みの日には秩父へ足を運び、古寺や里山の風景を眺めている。都会のネオンは刺激的だが、心まで満たしてくれない。しかし田舎道で出会う青い空や青々とした山並み、棚田から吹き降ろしてくる風が



滋賀県仰木棚田

心地よくて、都会では味わう事の出来ない愉快な心にさせてくれる。

もっとも、若いころに同じような田舎道を歩いても、そんなふうには思えなかったというところと自信が無い。棚田を渡る風を感じるには、すいぶん回り道が必要かもしれない。

都会に暮らす私のような、田んぼを見るのが無い、サボテンすら枯らすような人間が、今棚田を守る活動に参加している。私と同じように都会で過ごす大多数の人々が、少しでも棚田に関心を持ってくれたらと願っている。それが、意識を変え、行動につながってゆく。そしてやがて棚田を守ることに大きくなるのだから。

会員のひろば



会員の声募集!



会員レポート

「茂木、4回全部参加します」宣言!

廣川 和徳

茂木の棚田に入るとゆるゆるしていた。そこで足に何か動くものを感じた。小さなアメリカリガリガだった。地元の人に言うとうすくに、殺せと言われたので驚いたが、地元の人は「田んぼに穴をあけるから」と言った。農業とは自然との戦いなのだなと思った。

子供たちの適応力にも驚いた。バスの中では「都会の子供」だったのに、田んぼの中では「田舎の子供」になってしまい、カエルを捕まえて田んぼの隅に土で檻を作っていた。

お昼の食事の新鮮さとおいしさ、特にタケノコと味噌のおいしさ。(地元産品の販売で)野菜と味噌を買ってしまった。また、帰りに道の駅で安いイチゴをたくさん買って、夜にイチゴジャムを作りました。これもおいしい!

7月や9月、11月にも行くことを楽しみに待っています。皆さまに会えることも楽しみです。



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! (ご要望、感想やご質問でもOK!) (会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿七-1-116 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



棚田の声が聞こえる…。

神奈川県横浜市 木戸 幸子

初めて訪れた棚田の卓越地域・岡山県吉備高原は田植え期を迎えて「さあ一年頑張るぞ」と棚田達の声がこだましているようでした。

(岡山県久米南町 北庄の棚田 5月15日 快晴)

スケッチする人々

東京都調布市 高木 宏明

600年前の室町期の開削といわれ、往時は700枚もあったとのこと。その昔、天下統一を夢見た武将が行き来した街道も近く、今はスケッチ・グループの面々がのんびり絵を描いていました。

(滋賀県高島市 畑の棚田)



会員のみなさんのベストショット募集!!

みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!



■送り先はこちら!

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛

メールでも受け付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp

人生初の田植え体験

星 治希

私は東京農業大学の学生で、山梨県小菅村(東京の奥座敷)の多摩川源流流大学にて、地域再生活動、環境体験活動に関わっています。活動の中で2007年、大学の先輩方が小菅村長作地区に田んぼを35年ぶりに復活させました。田んぼ復活から3年目を迎えた今年の6月6日(日)、都会育ちの私は人生初の田植えに参加することができました!当日は天気にも恵まれ、農大の大澤学長と小菅村村長が見守る中、村民の方と一緒にコシヒカリともち米を植えました。田植えが終わった後は、先輩が、田植えの成功に感謝し、津軽地方に伝わる「荒馬踊り」を披露して会場を盛り上げました。

減反政策をとる日本の農

政において、米作りが喜ばれることはとてもうれしいことでした。小菅村に明るいニュースを学生側から提供することができてよかったです。



2010年度の棚田調査が始まりました

2010年6月5日 報告 氷見山 清子

今年度の調査地10箇所のスタートは、池袋駅から電車で約1時間のところにある埼玉県横瀬町寺坂の棚田です。今回は中島先生と、今年初めて調査に参加する井上、萩谷、岩野、氷見山の5名で寺坂棚田学校での取り組みを伺いました。学校の棚田では植えつけ直後の苗がすくすくと育っていました。棚田からの眺めもすばらしかったです。寺坂棚田学校の皆様、貴重なお話をありがとうございました。また、今後調査でお邪魔させていただく棚田の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



丸の内さえずり館ボランティア説明会にスタッフとして参加

2010年6月5日 報告 岩野 知子

日中は働いているので終業後に会場に向かいます。到着したら、資料のセット、受付、試食のおにぎりを配る、自分の関わり方をお話しするなど、あっという間の2時間です。

興味はあるけどボランティアは時間がなくて無理…という方も、まずは休日や仕事帰りのちょっとした空き時間を利用してみては。次はこんなことできるかも、今は仕事が忙しいから少々お休み、といった具合に自分の状況と相談しながら参加するのがコツですよ。一緒に楽しく活動しませんか？



棚田ネットワークの かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

Kamyの 【カミー】

つぶやき



つぶやき人
事務局スタッフ カミー
(所沢市在住)

事務局の手伝いを始めて間もないころ、新潟の会員さんから電話が入りました。

『会費は払ってありますので、どうか除籍しないで下さい』
会費納入が一年ほど遅れている会員さんに、「〇〇月までに入金がないと会員の資格が無くなります」という通知が届いたらしいのです。調べてみると2年分一括納入されており、平謝りで許していただきました。このケースでは入金金は正しく処理されていましたが、会員管理の有効期限延長処理がもれていました。極端な例をあげましたが、他にもケアレスミスが数件ありました。スタッフが足りない、ほとんどがEXCELによる手作業。担当者が細心の注意を払ってもミスゼロに出来る環境になかったのです。

早速新人スタッフのNさんが簡易ソフトで会員管理に取り組んでくれ、事務作業は大幅に簡素化されました。更に一年後、「会員管理」と「会計管理」をデータベース化し、両者を連動するようにしました。

銀行口座の残高とデータベースの残高照合により会費入力もれの排除、会費催促状の出力も自動にした結果、運用開始一年強、いまのところ会員さんからの苦情は0件です。とはいえ、会費を現金で直接受け取る場合は自動照合とはなりませんし、機械にデータを入力するのは人間です。これから会費を払ってくれる方は神様ですが、ミスの可能性はゼロではありません。

(ご指摘、疑問、苦情は遠慮なくどうぞ(応援もね！))



■ ブログ「棚田に吹く風」
<http://tanada.sblo.jp/>

栃木県茂木町

茂木プロジェクト

わくわく体験田植えが終わりました



5月22日、岩ノ作棚田での「わくわく体験田植え」が、五月晴れのもとで無事終わりました。参加者は総勢65名。田植えも、田んぼに入るのも初めてという人が多く、足に触れる土の感触に大歓声があがりました。

地元からの連絡では、私たちが植えた小さな苗も、よく活着し順調に育っているそうです。この田植えをお膳立てしてもらいました地元小深集落の方々に、心から感謝しています。

次のイベントは7月24日の「夏季・棚田と里山の生きもの調査」です。あの日、一本植え、二本植えた稲はどのように成長しているのでしょうか。とても楽しみです。生きものたちで賑わう夏の棚田・里山で、楽しい一日を過ごしましょう。皆さま、奮ってご参加ください。（安井 一臣）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープ田植え



棚田ビオトープ「ふれあいの棚田」の田植え

田植え日和でした。溪流近くの棚田ビオトープの田植えを5月28日に行いました。参加者は棚田ネットワーク2名（一人は神奈川から、もう一人は岐阜の大学生で卒論のテーマが棚田）、恵那市坂折棚田保存会2名、岐阜県立国際園芸アカデミー学生・教員5名で、計9名。まずは棚田ビオトープ内のふれあいの棚田と昔ながらの棚田の除草。昨年のふれあいの棚田は赤米であるカンニホのこぼれ種が「自然に」発芽していたので、それを生かしましたが、今年は代かきをしたので岩を中心にミネアサヒをドーナツ型に「植栽」、昔ながらの棚田は通常の田植え。お昼はお茶番処で手打ちそば。午後は植物観察をした後、鎌で畦畔草地の除草をしました。神奈川からの棚田ネット会員の方、楽しんでいただけましたか？またお越しくださいね。（相田 明）

大阪府中央区

大阪プロジェクト

早乙女田植え@仰木の棚田



早乙女たち

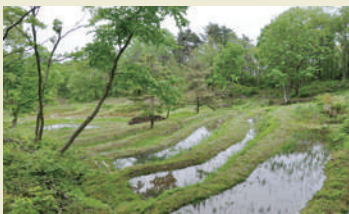
5月8日、滋賀県大津市^{おおつ}仰木の棚田で、棚田むすびの会の田植えをしました。参加者は32名、うち女性15名がかすりの着物に赤いたすきの「早乙女姿」になって苗を手植え、その様子は新聞や地元の琵琶湖テレビでも紹介されました。

参加者からは「とても楽しかった。着物の方が田植えに向いているかも」、農家さんからも「良かった。来年はもっと広くて晴れ晴れしい場所でやって欲しい」とすこぶる好評でした。また、「田んぼは初めてだけど、早乙女姿になりたかった」という声も多く、ファッションの角度から棚田保全の輪を広げていくのも有効な方法だと確信。秋の大阪棚田フェスティバルに向けて、棚田ファッションショーを企画検討中です。（中崎 義志晴）

新潟県佐渡市

トキ餌場復田 プロジェクト

佐渡復田ツアー準備中！



小佐渡の山中に「天空の楽園」が

棚田ネットが佐渡へ通うようになって7年。いつも7月の海の日前後に、「棚田×トキの餌場となるビオトープ」の復田作業に通っています。「年一回行くだけで、果たして役に立っているのか？」と不安もありますが、地元の人「日常管理は自分たちでやるが、復田はきっかけが必要。外の人があると背中を押される形になり、取り組みやすい」と言ってくれます。

そして、先月末に打ち合わせで佐渡へ行った際に見せてもらった風景。「ここは棚田ネットが最初に復田してくれた場所。その後だんだん広がって、今は20枚以上になった」「ここも棚田ネットと獨協大学がやってくれた」「片野尾から始まり、月布施、野浦、〇〇〇とつながって、小佐渡の山中に棚田ビオトープの回廊ができつつある。」「継続は力」と、あらためて思いました。今年も佐渡復田ツアー実施します。（高野 光世）

もっと日本のおいしさを。。。。



「日本のおいしさを発見、体験する。もっと日本を知り、味わい、そして日本を大切にする気持ちを育てる」をコンセプトに「もっとNIPPON!」のスローガンのもと、中間流通ソリューションとして「地産全消」に取り組んでいます。

環境保全など様々な機能を持ち、美味しいお米を生み出す棚田。リョーショクは、日本の原風景・棚田を応援してまいります。



山形県朝日町 くぬぎ平棚田
特別栽培米こしひかり 5kg



新潟県長岡市 北苧頃棚田
特別栽培米こしひかり 3kg



株式会社 菱食
フードコーディネーター本部

〒143-6556 東京都大田区平和島6丁目1番1号(東京流通センターアネックス)
電話 03-3767-4232(直通) <http://www.ryoshoku.co.jp/>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

「森ガール」から「棚ガール」へ

会報リニューアルして2号目で感じたことといえば、特集などの企画が俄然楽になったこと。今までは、印刷の質の関係上、写真よりもやはり文章ベースの構成にしろくはならなかったのですが、前回から写真中心の特集が組める!しかも印刷代は変わらない!笑。まあ言ってみれば、企画のバリエーションが増えて、気持ちに余裕ができた感じでしょうか。そんなこんなで今回の特集「フアッ ション誌のようながやりたい!」という軽いノリで組んでみました。「森ガール」なる言葉が流行るなか、これから「棚ガール」でしよう!というわけで、今年の各地の田植えイベントで集めてきた様々なスタイル。たまにはこういう特集もいいかな?

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットワークHPIは、主要検索サイトの「棚田」で、ほぼトップにランクする優良サイトです!内容も盛りだくさん、今年はウェブ独自企画も計画中!乞うご期待。



おすすめコンテンツ

『百選棚田以外の棚田』
百選の棚田はもちろん、百選以外でも保全活動が盛んな地域や特徴のある棚田を紹介してます!

www.tanada.or.jp



発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp

2010年7月号 Vol.71